令和５年度　南部ブロック研修会
日時:令和５年９月８日(金)14:00～16:00　会場:アマランス研修室１・２　参加人数:49 名
報告者：佐藤　真也

最初に長崎市臨時特別給付金係、前田室長、白木係長にお越し頂き、価格高騰で生活にお困りの方対象に臨時特別交付金の周知があった。

大町会長より挨拶と第９期介護保険事業計画に対するアンケート、ケアプランの考え方・書き方についてのアンケート、個別避難計画作成の協力依頼がある。また救急隊への情報提供書の書式の周知があり、安心カードと共に有効活用していきたい。

その後、大町会長より事例提供があり事例検討会が始まる。事例の概要は要介護４の女性、重度の脊髄損傷があり、両下肢麻痺がある。老人ホームへの入所の検討もあったが、元々、旅行が好きな活発な方だったということもあり、エネルギッシュにかつ意欲的にリハビリに取り組まれ、独り暮らしは難しいと思われていたが、介護サービスの調整とリハビリの甲斐がありマンションで独り暮らしを開始できるまでになった。ベッドや車いす、歩行器や手すりなど福祉用具を活用し、通所リハビリ、訪問看護、訪問介護で生活を支えていた。元々活発な方だったので外に出てお買い物を自由にできないことなどを辛く思っているのではと思っていたが、「便が出ないことが１番辛い」との言葉がある。その言葉を聞いて、介護サービスの調整ばかりに目が行っていたが、その方の便に対してアセスメントができていなかったことにハッとさせられた。

グループワークの中でも、便に関するアセスメントと言えば、どのくらいの頻度で出るのか、下剤を使っているのか等は聞くが、便の形状、固さ、色、まで注意深く聞くと言うケアマネはほとんどいなかった。そこでブリストルスケールを紹介され理想とされる便の形状を知る。

(株)メディウエイブ中島川薬局の田上理愛薬剤師兼介護支援専門員より排便のメカニズムから便秘の種類、下剤の種類に関する講義があった。下剤には膨張性下剤、浸透圧性下剤、刺激性下剤、上皮機能変容薬、消化管運動賦活薬、漢方薬などがあり、便秘の状態によって使い分ける。認知症のある高齢者の排便状況を把握することは容易ではないが、訪問看護師の力を借りつつ、薬剤師と連携することの重要性を学んだ。

便は体からのお便りという言葉もあり、体の状態や変化を知るためにも重要な観察ポイントであることを再認識した。排便に関して少しでも課題のある利用者のケアマネジメントにおいて、今回の研修を生かし、利用者のＱＯＬの向上に寄与していきたい。